

フォーラム特集第4弾 6/28 中部教育事務所・7/7 県南教育事務所 「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」

両日とも、元文部科学省 CS マイスターで、現在、秋田県生涯学習センター社会教育主事の皆川雅仁氏を講師として、フォーラムを開催いたしました。

6/28は、皆川氏の講演「地域とともにある学校づくりはなぜ必要なのか～コミュニティ・スクールが織りなす未来を思い描いて～」の後に、中部教育事務所齋藤主任指導主事が進行役となり、全体協議を行いました。参加者同士の協議の時間も設け、コミュニティ・スクール導入に向けて活発な協議が行われました。

7/7は、皆川氏にコーディネータを務めていただき、平成29年度よりコミュニティ・スクールとなっている金ケ崎町立三ヶ尻小学校城生野校長と前学校運営協議会委員の板宮氏をシンポジストとして、「コミュニティ・スクールになったら、何がどうなったの!?～三ヶ尻小学校のコミュニティ・スクール運営を例に～」と題してシンポジウムを開催しました。



その後、皆川氏より、「なぜ、今コミュニティ・スクールなのか～CSがもたらす新たなネットワーク～」と題して講演いただき、コミュニティ・スクールが形骸化しないための「熟議」の重要性等について、実体験をもとに具体的にお話をいただきました。

参加者からのアンケートには、「コミュニティ・スクールのイメージがより理解できた」「もやっとしていたことが明確になり、すぐにでも取りかかりたい気持ちになった」など、コミュニティ・スクール導入に向けて前向きなコメントが多数寄せられました。



【参加者アンケートより】

- コミュニティ・スクールのよさや大切さが、皆川先生の言葉から強く感じることができました。「マンネリ化の方が楽」と言われ、その通りで恥ずかしく思います。学校運営協議会がスタートするので頑張りたいです。
- 「やらされる」から「やってみよう」に意識を少し変えることができた。子供のため、地域のため、計画的に取り組んでいこうと思った。
- 学校運営協議会制度に対する考えが全く変わった。評議員制度との違いも明確になった。校長からのトップダウンで「気づいたらやっていた」というのではなく、やはり、全教職員で共通理解し、アイデアを出し合いながら、地域の人材をより活用させていただける場面を設定して取り組んでいきたい。
- 「なぜ」「何のために」「どのように」「どんな成果が」等 CS についての理解が深まった。特に、「地域のための学校」という意味を再確認した。「CS に先進事例なし」まずやってみることを学んだ。

